

成人期の **ADHD**（注意欠陥多動性障害）自己記入式スクリーニング（**ASRS-v1.1**）
世界保健機構の統合国際診断面接より一部抜粋

© World Health Organization 2011

All rights reserved. Based on the Composite International Diagnostic Interview © 2001 World Health Organization. All rights reserved. Used with permission. Requests for permission to reproduce or translate — whether for sale or for noncommercial distribution—should be addressed to Professor Ronald Kessler, PhD, Department of Health Care Policy, Harvard Medical School, (fax: +011 617-432-3588; email: ronkadm@hcp.med.harvard.edu).

Acknowledgements

Translation of this document was performed on behalf of the World Health Organization Composite International Diagnostic Interview Advisory Committee by Toshinobu Takeda, MD, PhD, of Ryukoku University, Faculty of Letters, Kyoto, Japan.

成人期のADHD(注意欠陥多動性障害)をお持ちではありませんか？

以下の自己記入式症状チェックリストをご利用ください。

多くの成人がADHDをかかえて生きているにもかかわらず、それを自覚していません。なぜなら、その症状はストレスの多い生活によるものと勘違いされやすいからです。ストレスに似たフラストレーションにこれまでのほとんどの人生を通じて悩まされてきた人は、成人期のADHDである可能性があり、その場合は医師の診断と治療を受けることができます。

以下のチェックリストは、あなたが成人期のADHDの徴候や症状をもっているかどうかを判断する一助となりますが、この分野の専門家による診断に取って代わるものではありません。正確な診断は臨床評価によってのみ可能です。以下の質問への回答の結果にかかわらず、成人期のADHDの診断や治療を受ける必要があると思われる場合は医師にご相談ください。

この **Adult Self-Report Scale-V1.1 (ASRS-V1.1) Screener** (成人期のADHD自己記入式スクリーニング) は18歳以上を対象としています。

成人期のADHDの自己記入式スクリーニング(ASRS-V1.1)

世界保健機構の統合国際診断面接より一部抜粋

日付

	全くない	めったにない	時々	頻繁	非常に頻繁
1. 物事を行うにあたって、難所は乗り越えたのに、詰めが甘くて仕上げるのが困難だったことが、どのくらいの頻度でありますか。					
2. 計画性を要する作業を行なう際に、作業を順序だてるのが困難だったことが、どのくらいの頻度でありますか。					
3. 約束や、しなければいけない用事を忘れたことが、どのくらいの頻度でありますか。					
4.じっくりと考える必要のある課題に取り掛かるのを避けたり、遅らせたりすることが、どのくらいの頻度でありますか。					
5. 長時間座っていなければならない時に、手足をそわそわと動かしたり、もぞもぞしたりすることが、どのくらいの頻度でありますか。					
6. まるで何かに駆り立てられるかのように過度に活動的になったり、何かせすにいらなくなるのが、どのくらいの頻度でありますか。					

グレーで色づけした部分にチェックがいくつあるかを数えます。4つ以上チェックがついている場合、あなたの症状は成人期のADHDに該当している可能性があります。医療の専門機関でさらなる評価を受けることをお勧めします。

成人期の ADHD の自己記入式スクリーニングの重要性

研究によれば、ADHD の症状は成人になっても持続し、その障害をもつ人の人間関係やキャリア、さらには個人の安全にさえも深刻な影響を与えかねません^{1,4}。また ADHD はしばしば誤解を受けやすいため、この障害をもちながらも適切な治療を受けることができず、その結果として自分の持つ潜在能力を最大限に活かすことなく人生を送ってしまうケースがあります。問題の一端は、この障害の診断が、特に成人において困難であるということにあります。

成人期の ADHD 自己記入式症状チェックリスト (ASRS-v1.1) は世界保健機構 (WHO) と下記の研究者よりなる成人期の ADHD 作業グループが協力して作成しました：

Lenard Adler, MD

Associate Professor of Psychiatry and Neurology
New York University Medical School

ニューヨーク大学医学部 精神・神経医学科准教授 レナード・アドラー医学博士

Ronald Kessler, PhD

Professor, Department of Health Care Policy
Harvard Medical School

ハーバード大学医学部 ヘルスケアポリシー部門教授 ロナルド・ケスラー医学博士

Thomas Spencer, MD

Associate Professor of Psychiatry
Harvard Medical School

ハーバード大学医学部 精神医学科准教授 トーマス・スペンサー医学博士

医師や専門家の方々はこのASRS-v1.1を成人期のADHDのスクリーニングツールとして利用し、その結果によっては、さらに詳しい臨床面接を考慮されるとよいでしょう。ASRS-v1.1の質問事項はDSM-IVでの基準と合致しており、成人期のADHD特有の症状に焦点を当てています。DSM-IVではまた、正しい診断のためには症状や障害、既往歴が重要であるとされており、チェックリストの質問内容はそれを反映しています。このスクリーニングを行うことにより、診断プロセスにおける重要な補足情報がわずか5分で得られます。

参考：

1. Schweitzer, J.B., Cummins, T.K., Kant, C.A. Attention-deficit/hyperactivity disorder. *Med Clin North Am.* 2001;85(3):10-11, 757-777.
2. Barkley, R.A. *Attention deficit hyperactivity disorder: a handbook for diagnosis and treatment (2nd ed.)*. 1998.
3. Biederman, J., Faraone, S.V., Spencer, T., Wilens, T., Norman, D., Lapey, K. A, et al. Patterns of psychiatric comorbidity, cognition, and psychosocial functioning in adults with ADHD. *Am J Psychiatry.* 1993;150:1792-1798.
4. American Psychiatric Association. *Diagnostic and statistical manual of mental disorders, (4th ed., text revision)*. Washington, DC. 2000:85-93.